

【課題番号】 1-2504

【研究課題名】 サステナビリティトランスフォーメーションとローカル SDGs に関する研究

【研究期間】 2025 年度（令和 7 年度）～2027 年度（令和 9 年度）

【研究代表者（所属機関）】 川久保俊（慶應義塾大学）

研究の全体概要

SDGs 達成に向けた進捗は芳しくなく、2030 年までに達成可能な目標は全体の約 15%に留まるとされている。目標年限までに SDGs を達成するためには、持続可能な社会への変革（サステナビリティトランスフォーメーション：SX）をより迅速に進める必要がある。特に、“Think Globally Act Locally”という標語が示すように、ローカルレベルにおける SX の実現が求められる。

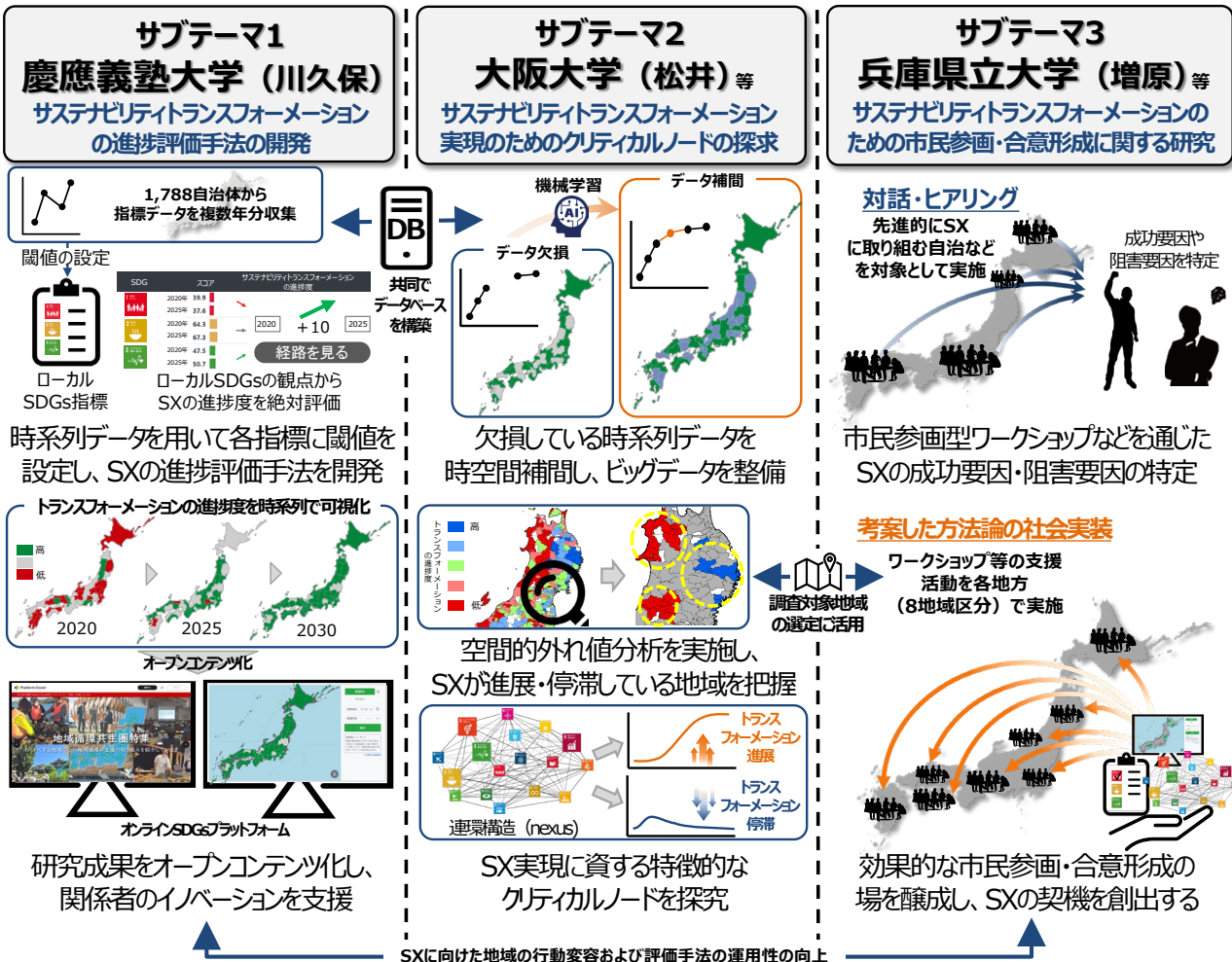
現在、全国の様々な主体が SDGs 達成に向けて取り組んでいる旨を標榜しているが、SX の実現に繋がる成果には結びついていない。その一因として、取り組みの進捗評価が相対的持続可能性（Relative Sustainability）に基づいている点が考えられる。相対評価の結果が示すのは比較対象との優劣であり、真に持続可能であるための目標水準と現状のギャップを正しく認識することができない。その結果、SDGs 達成に向けた取り組みを促すインセンティブが生まれない点に大きな課題が残されている。

SX を実現するためには、持続可能な社会を実現するために到達すべき絶対的な目標水準を明確化し、絶対的持続可能性（Absolute Sustainability）を評価する必要がある。そこで本研究では、Absolute Sustainability の概念を参照しつつ、ローカルレベルにおける SX の実現に資する知見を創出することを目的とする。具体的には、①SX の進捗評価手法の開発、②SX 実現のためのクリティカルノードの探究、③SX のための市民参画・合意形成に関する調査研究を行う。

本研究の最終的な目標である SX の実現は、経済・社会・環境における課題の統合的解決を目指す地域循環共生圏の実現に繋がるほか、人々のウェルビーイングの向上にも寄与するものである。

サステナビリティトランスフォーメーションとローカルSDGsに関する研究 (研究代表機関: 慶應義塾大学)

ローカルSDGsの達成と持続可能な社会の実現に向けたサステナビリティトランスフォーメーション(SX)の促進に貢献



進捗評価システムの構築

クリティカルノードの探求

知見の社会実装

持続可能な社会への変革へ包括的にアプローチ

